

G—8 わが国における一般国民の食生活に関する教養の展開過程（第3報）
—嗜好食品の分析を中心として—

和洋女大文家政 石川松太郎
清水女高 ○市毛 弘子

1. 本研究は、近代社会において発刊された4種の生活総合事典（明治39年版・昭和2年版・昭和9年版・昭和37年版）に採録された食生活にかかわる事項（約7000項目）を調査し、これをもとに、明治初年以降、今日にいたるまで、一般国民、とりわけ主婦が、この面で身に

つけてきた、または身につけるように期待されてきた教養が、量的でないし、質的に、どのような変動過程をたどったかについて分析する。そして、このことにより、将来の家庭生活、家庭教育のあり方について、示唆をうることをもって目的とする。

2. 3. すでに、第1報・第2報（本学会第19回・第20回総会で発表）において、上記7000項目中、「食品」「料理形式」「調理技法」「調理機器」に関するものの調査結果について検討した。今回は、さらに進んで、「嗜好食品」について調査吟味した。すなわち、4種の事典に盛りこまれた嗜好食品についてのカードを抽出し、これを、菓子類・酒類・茶類・その他に分類して、それぞれの項目数やボリュームを算出し、これにさまざまな統計的操作を加えることにより量的な変動過程を、各事項の記事内容を分析することにより質的な変動過程を明らかにしようとした。その結果、近代食生活史上において、嗜好食品が占める位置や内容の変動過程など、いくつかの重要な成果が得られたので、本大会での発表を希望することにした。